

## ◇夏休み体験学習会「絵の具のマール染めでうちわを作ろう！」

令和7年8月3日（日）に、さらのき工場の松岡冴先生を講師にお迎えし、水の上に絵の具で模様を作り半紙に染め写して、思い思いのマール模様のうちわ作りを楽しみました。



## ◇冬休み体験学習会「漆のこし紙でお面に絵付けをしよう！」

令和7年12月28日（日）に、工房汽水の佐々木春奈先生を講師にお迎えし、狐型のお面に漆をこした紙や色ペンでお面に絵付けをし、漆について楽しく学びました。



## 農業科学博物館◇季節の体験イベント

農業科学博物館では、ふれあい公園内に咲いている花やドングリなどの木の実を利用した季節ごとの体験イベントを常時、開催しております(^^)／



◇「草花のこすり染め体験」  
令和7年5月～11月



◇「木の実のハンドメイド体験」  
令和7年11月～開催中

### ◇◇◇博物館ご利用案内◇◇◇

【休館日】 毎週月曜日（ただし祝日の場合は翌日）

年末年始（12月29日～1月3日）

なお、臨時休館する場合があります。

詳しい開館日・開館時間についてはHPをご確認ください。

【入館料】 高校生まで無料

個人 学生 150円／一般 320円

障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される場合は、入館料が無料になります。

### 次回開催の企画展

第96回 「鳥獣害」  
～農作物被害の現状とその対策～

開催期間 令和8年3月1日  
～5月31日（予定）

## 農業ふれあい公園だより

## No.33

2026  
(令和8年)  
February

【岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館】 岩手県北上市飯豊3-110 TEL:0197-68-3975

農業ふれあい公園は、幅約210m×奥行約800mで広さは約17畝、たくさんの樹木に囲まれた散策路のある県民の皆様憩いの場となっています。芝生広場、ひょうたん池、グランドゴルフ場、ゲートボール場、東屋などがあり、子供たちの遠足や家族でのピクニック、昆虫採集やザリガネとり、ランニングやお散歩など、思い思いの時を過ごせる場となっています。また、春の桜から、初夏のナツツバキ、秋の紅葉、晩秋のドングリ拾い、冬のそり遊びなど、四季折々の豊かな自然を楽しむことができます。



満開の八重桜



遊歩道脇のユキヤナギ



紅葉を迎えたカエデ類



農業かがく館



見学後にロビーで体操をする園児



収蔵庫の探検



ひょうたん池に現れたアオサギ



近隣サークルのウォーキング



桜の丘で川遊び

公園内には岩手の農業を知ることができる農業科学博物館があります。館内には「農業れきし館」と「農業かがく館」の二つの展示室があり、「農業れきし館」には、江戸時代後期から昭和40年頃まで農業や農家生活で実際に使われた農具や民具などが展示され、暮らしや食文化、農業の歴史などを紹介しています。「農業かがく館」には、田んぼの中の世界や、野菜や果物について学べる巨大な冷蔵庫、牛の体のしくみのほか、ゲームやクイズ、パズルなど農業について楽しく学べるコーナーがあります。ロビーの一角には、正月飾り、お雛様、鯉のぼり、七夕飾りなどがそれぞれ時期ごとに展示され、季節感が味わえます。園児や小学生、自治会等の皆様が来館し、親子遠足や校外学習、農業研修などの場として広く利用しています。

# 企画展レポート

## 第93回 「小麦農林 10号」生誕90年

～「緑の革命」をもたらした半わい性コムギ品種の誕生と岩手県における作物品種改良の現在～

令和7年3月16日(金)～6月1日(日)

昭和10年(1935)、背の低いコムギに「小麦農林10号」との品種名がつけられました。この品種は、岩手県立農事試験場の農林省指定小麦地方的試験地で、農林省派遣の地方農林技師・稲塚権次郎と県農林技手・浅沼清太郎により育成されたものです。小麦農林10号は、国内ではあまり広まりませんでした。昭和21年(1946)アメリカに渡り交配親として使われ、メキシコやインド等の国々でコムギ収穫量を増加させ、多くの人々の命を救いました。これが「緑の革命」でメキシコ系半わい性コムギ品種群を育成したボーローグ博士はその功績により、農学者として初めて1970年にノーベル平和賞を受賞しました。当時の貴重な研究資料や当博物館で所蔵するコムギ関連の農機具の展示をまじえて、半わい性を活用した作物品種改良の現在を紹介しました。



育成者 稲塚権次郎

## 第94回 いわたのりんご150年

～西洋りんご栽培のはじまりから明治時代のりんご栽培を振り返る～

令和7年6月6日(金)～10月5日(日)



明治20年代のりんご栽培

岩手県におけるりんご栽培は、明治5年(1872)に横浜慶行氏らによって植栽されたのが始まりとされ、今年で153年を迎えました。この間、栽培の工夫や技術開発、栽培技術の改善、薬剤防除の進展、生産手段の合理化、優良品種の開発わい化栽培の導入、集団栽培や法人化など新たな生産体制の確立、貯蔵方法や包装技術の改善、選別作業の機械化など、この150年間の技術や生産体制の躍進はめざましいものがあります。今では栽培面積で全国第3位を誇る産地となり、岩手県の農業粗生産額においても上位を占めています。

岩手県政150周年に合わせ、日本における西洋りんご導入以前のりんごの紹介とともに、岩手県における西洋りんご栽培のはじまりから明治時代のりんご栽培の状況を中心に、今日に至るまでの歴史を紹介しました。

## 第95回 いわたのひつじ150年

～岩手の畜産業ではあまり知られていない羊の魅力にせまる～

令和7年10月10日(金)～令和8年2月23日(月)

岩手県におけるひつじの導入は、明治9年(1876)に福岡村(現二戸市)で約30頭の飼育が始まりとされ、今年で149年を迎えました。この間、羊毛用や肉用など数々の品種が導入され、飼育技術の向上や羊毛需要の高まりなどにより、大正から昭和にかけて飼養頭数がピークを迎えたものの、昭和36年(1961)の羊毛自由化で頭数は減少し、現在に至っています。岩手県の令和5年現在の飼養頭数は1,111頭を超え、増加傾向にあり、北海道に次ぎ全国第2位となっています。近年は、奥州市梁川地区での耕作放棄地対策としての導入、滝沢市や花巻市でのひつじ園の開設、遠野ジングスカンなど、活気を帯びてきました。岩手県政150周年に合わせ、本県におけるひつじ導入の始まりから、飼育方法、羊毛や羊肉の利用など、ひつじの魅力を紹介しました。



企画展開催コーナー

## 「農の生け花展」 「まゆ系繰り実演」 「漆工体験」 「発動機実演」

令和7年9月6日(土)に開催された農業研究センターの公開デーに合わせて、岩手県農の生け花愛好会の皆さんが「農の生け花展」を開催したほか、さらのき工房の松岡冴さんらが「まゆ系繰り実演・展示」、工房汽水の佐々木春奈さんが「漆工体験」のコーナーを設置し、屋外では、おうしゅう発動機愛好会の皆さんが古い発動機や農機具を持ち寄って実演していただき、多くの皆様が来館され、各種体験などを楽しんでいただきました。



「農の生け花展」に参加された愛好会の皆さん



「まゆの系繰り実演・展示」



「漆工材料で絵を描こう」



「おうしゅう発動機展」

### 「花巻人形」による雑飾り展示コーナー



当博物館ロビーでは、季節展示コーナーを設置して正月飾り、雛人形飾り、鯉のぼり・五月人形、七夕、秋祭り、ハロウィン飾りなどを展示しています。

### 岩手朝日テレビ「GOGO いわて」が取材で来館



「天津木村のどっかえトコありますか？」の番組取材で天津木村さんやスタッフの皆さんが令和7年5月28日に来館しました。ナイスポイント受賞！